

ごみの排出、処理処分における課題

1. 排出段階における課題

(1) 減量推移の鈍化

本市では、平成 22 年 2 月に「ごみ改革（ごみ袋の有料化、戸別収集の開始、ダストボックスの廃止）」を行いました。前計画の目標の一つである「ごみ 50%削減」については、翌年度の平成 22 年度で 9,448t の削減、約 14%（総ごみ量）減と大きく減ったものの、平成 23 年度以降はほぼ横ばいとなっており、前計画で掲げた目標の 50%削減に到達していません。

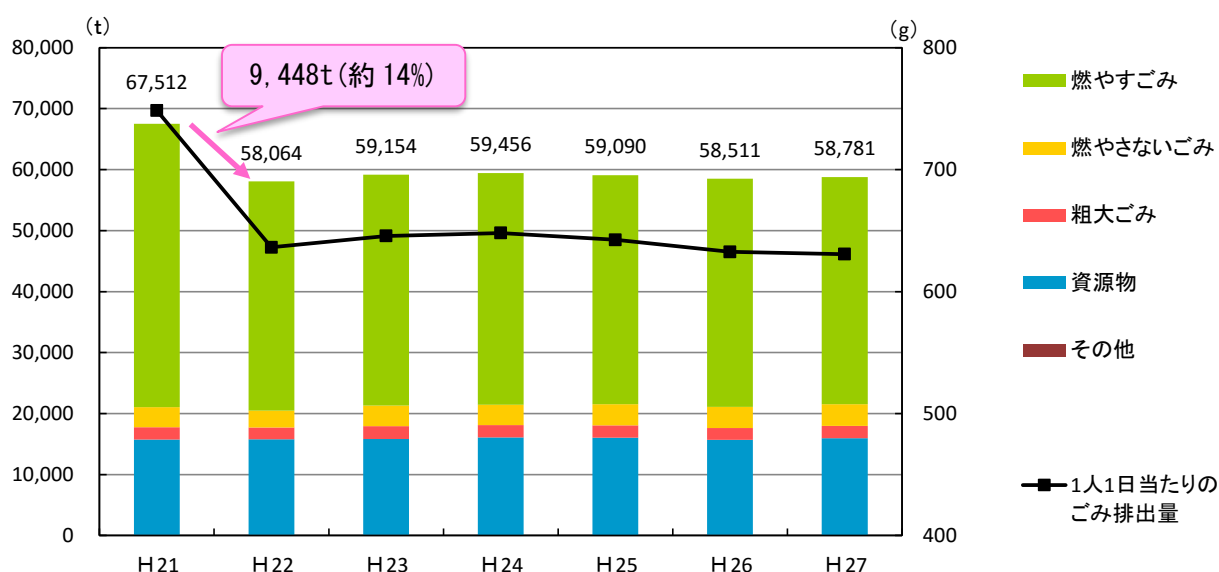


図 ごみ量及び1人1日当たりのごみ排出量の推移

※1人1日当たり排出量については、各年4月1日現在の人口で作成。

また、第6次府中市総合計画に平成 26 年度から平成 29 年度の目標として掲げた、平成 23 年度における1人1日当たりのごみ・資源物量 645g からの 50g 削減についても、平成 27 年度現在 631g と 14g 削減となっており、目標である 595g の達成に向けては、より一層の削減への取組みが求められています。

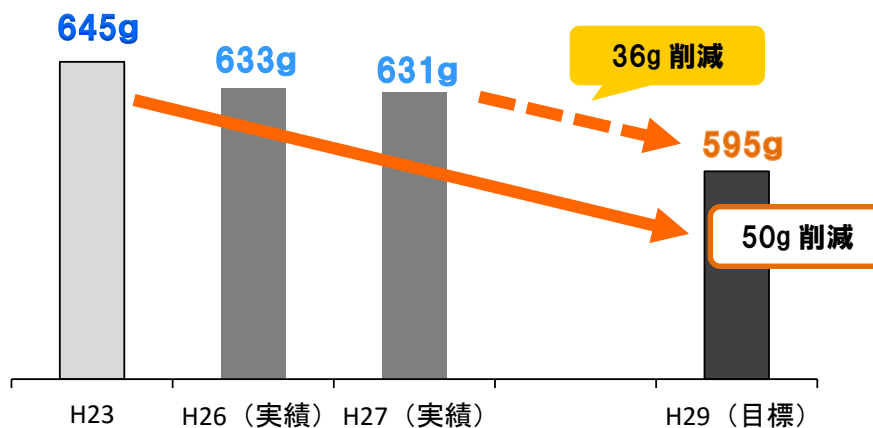


図 目標の達成状況

《参考》

1人1日当たりの総ごみ量（集団回収量除く）について多摩地域の26市で比較すると、本市は2番目に位置しています。最も少ない小金井市と比べると、約40g多くなっています。

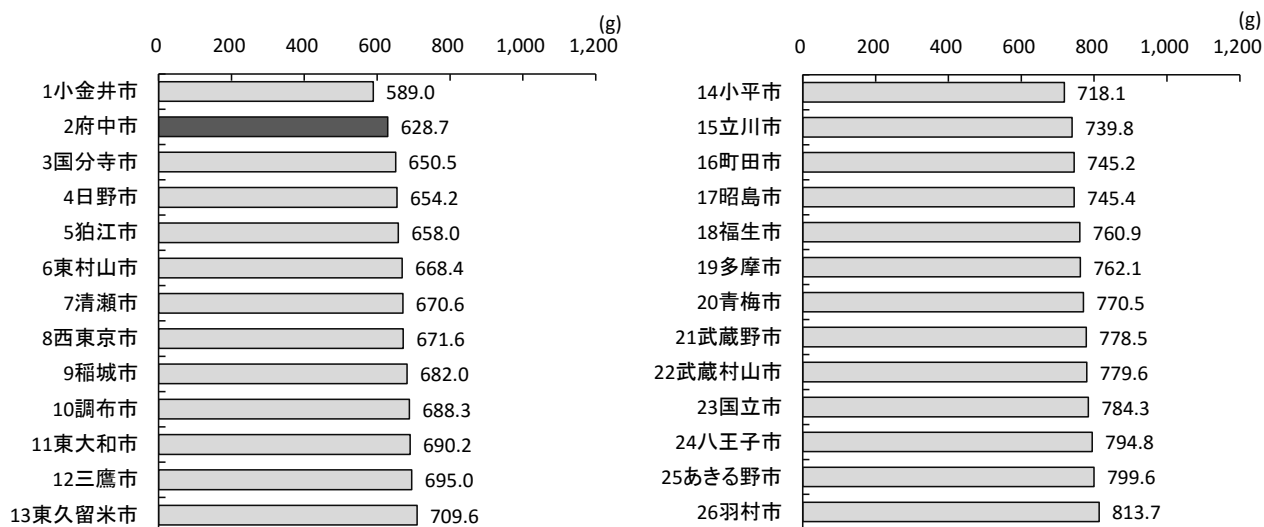


図 多摩地域 26 市における比較（平成 26 年度）

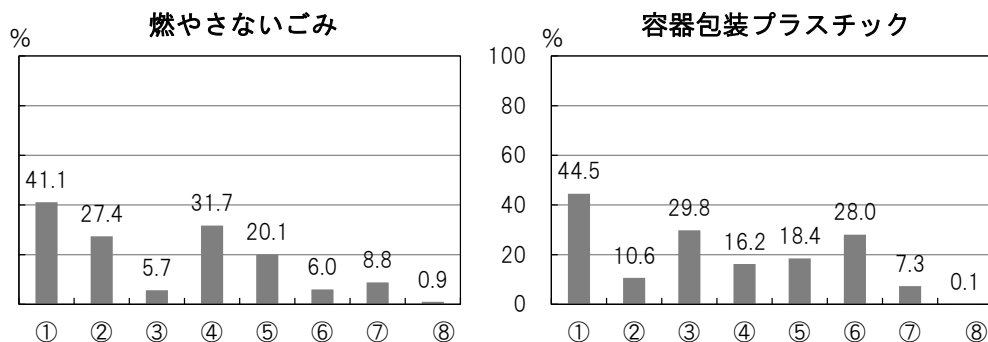
※出典：一般廃棄物処理実態調査結果（環境省）、各年 10 月 1 日現在の人口で算出。

(2) 分別の徹底不足

①分りにくい分別基準（燃やさないごみ、容器包装プラスチック）

市民アンケート調査において、各分別品目について困っていることを質問したところ、ほとんどの項目で「1. 困ることなく分別できる」と回答した割合が70%を超えたものの、「燃やさないごみ」及び「容器包装プラスチック」については40%台と低い結果となりました。理由として、「燃やさないごみ」は「4. 素材が分からないものがある」、「2. どの分別区分に該当するか分からない」、「容器包装プラスチック」は、「3. 手間である（洗う、束ねる等）」、「6. どこまで汚れを取ったら良いか分からない」といった意見が多く、該当する分別区分や洗浄の程度等といった基準の分かりやすい解説やその周知が必要です。

問2 以下の品目について、分別の際に困っていることはありますか。ある方は、その理由としてあてはまるものをそれぞれお答えください。（それぞれ○は3つまで）。



- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① 困ることなく分別できる | ② どの分別区分に該当するか分からない |
| ③ 手間である（洗う、束ねる等） | ④ 素材が分からないものがある |
| ⑤ 異なる素材がくっついていて分けられない | ⑥ どこまで汚れを取ったら良いか分からない |
| ⑦ 収集日までの保管場所がない | ⑧ このごみは普段出さない/出したことがない |

図 市民アンケート（問2）結果

②資源物の混入

ごみの組成分析調査において、平成 25 年度以降燃やさないごみに含まれる燃やすごみの割合は減少しているものの、資源については一定の割合を占めており、中でも「容器包装プラスチック」が多く混入しています。また、燃やすごみについても、資源物の混入割合が約 16～20%となっており、特にその他雑がみや新聞紙等が混入しています。

雑がみについては、市民アンケート調査においてどのように排出しているか質問を設け、その結果、「1. 雑誌・雑がみの日に出している」が 75.0%を占めたものの、「2. 燃やすごみの日に出している」という回答も 19.6%を占めました。その理由としては、「3. 量が少ない」（49.0%）が最も多く、次いで「1. 何が雑がみか分からない」（26.1%）となっており、資源化可能なものについては、少量であっても適切に分別排出し、資源物の回収量の向上と資源化を進める必要があります。

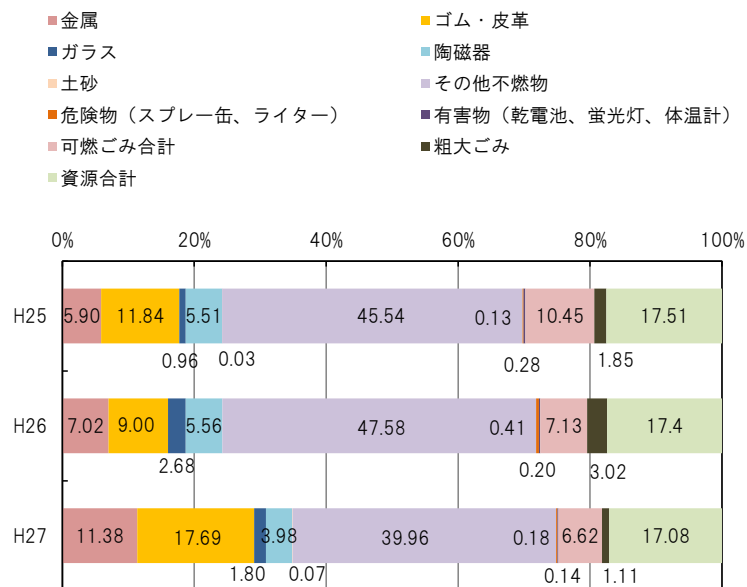


図 組成分析調査結果（燃やさないごみ）

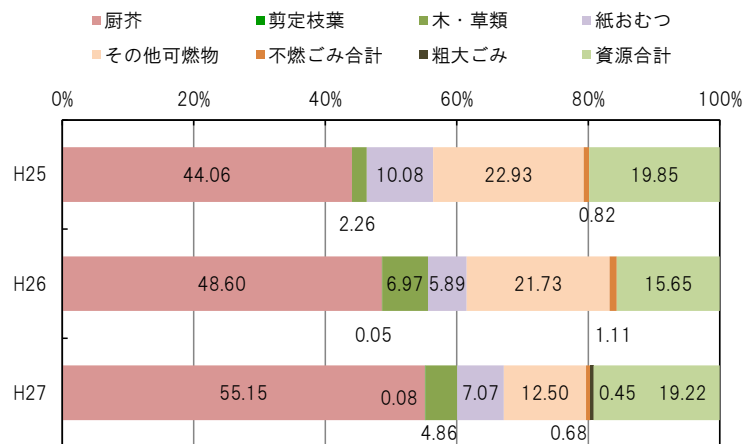
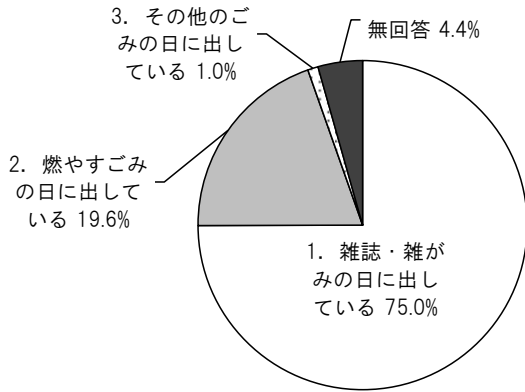


図 組成分析調査結果（燃やすごみ）

問 5-1 はがきやトイレットペーパーの芯、封筒、メモ用紙などの雑がみは、どのように出していますか。(○は1つ)



問 5-2 [問 5-1 で 2、3 に ○ を つ け た 方] その理由は、次のどれですか。(○は1つ)

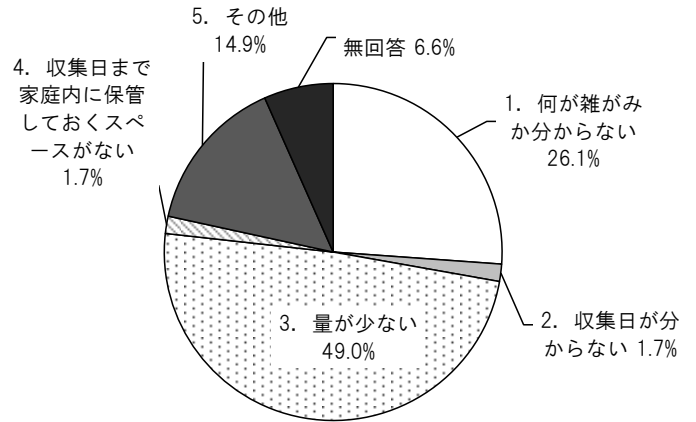


図 市民アンケート（問 5）結果

③減量化の徹底不足（厨芥類）

ごみの組成分析調査により、燃やすごみ中の厨芥について、ごみを乾燥させる前後の重量で比較した結果、乾燥前は約 266g あったのに対し乾燥後は約 49g となり 80%減となりました。主な要因は水分であるため、排出時の水切りが不十分であると考えられます。水切りを広く浸透させることで、さらなる減量の可能性があります。

(3) 啓発・情報周知の不足

市民アンケート調査において、ごみの分別や 3R に対する関心を質問し、年齢層で比較したところ、年齢層が高いほど「1. 非常に関心がある」、「2. ある程度関心がある」と答えた割合が高くなりました。「3. あまり関心がない」、「4. まったく関心がない」との回答は 20 代～30 代でやや多くなっています。府中市人口ビジョンによると、本市における転入者は毎年 15,000 人前後となっており、中でも 20 代～30 代が多いことから、他部門と連携して転入者に対する啓発や情報の周知の徹底を行う必要があります。

問 1 あなたは、ごみの分別や 3R にどの程度関心がありますか。(○は1つ)

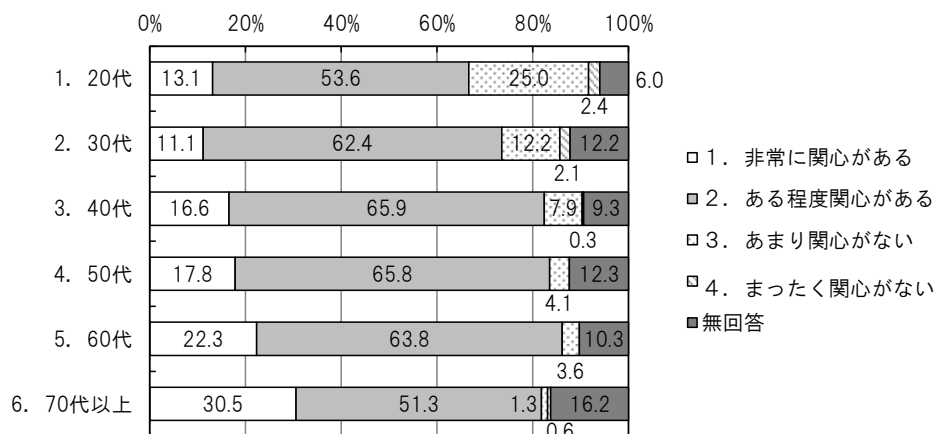
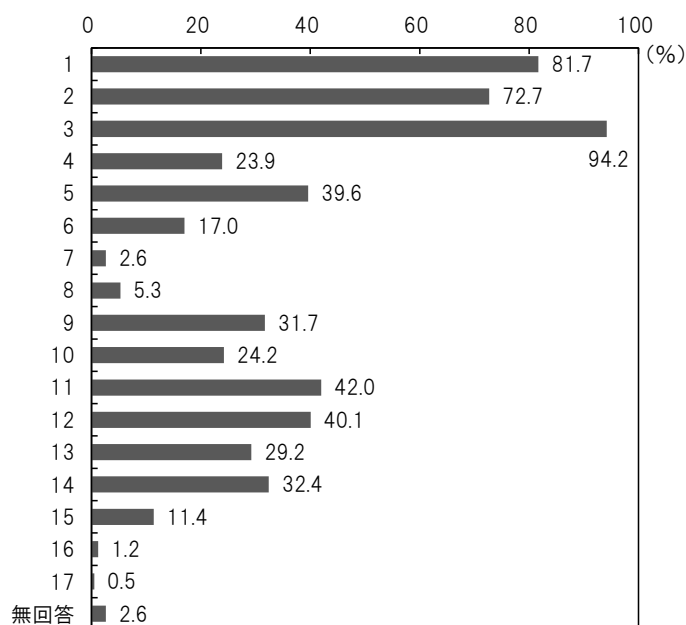


図 市民アンケート（問1）結果

市民アンケートにおいて、市が行っている施策の認知度を質問した結果、「3. ごみ・資源物の出し方カレンダーの発行」という回答が94.2%と最も多く、ついで「1. 広報誌「広報ふちゅう」でのお知らせ」が81.7%、「2. ごみの情報誌「府中のごみ」の発行」が72.7%と情報提供等に関わる施策が高くなっています。しかし、多くの施策はいずれも50%以下となっており、市民の参画を進めるためにも様々な取り組みの情報周知も不可欠です。

問7 市が行っている以下の施策について、知っているものをすべてお選びください。（〇はいくつでも）

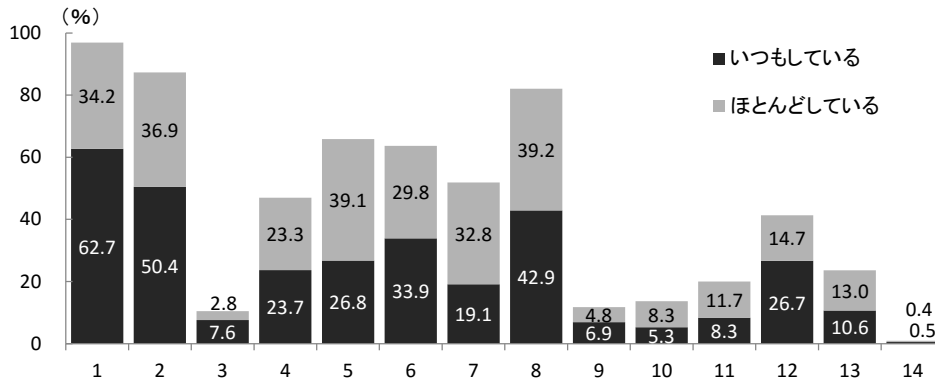


- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1. 広報紙「広報ふちゅう」でのお知らせ | 2. ごみの情報紙「府中のごみ」の発行 |
| 3. ごみ・資源物の出し方カレンダーの発行 | 4. 生ごみ処理機器等の購入費補助 |
| 5. 資源物回収事業（集団回収）の実施 | 6. ごみ処理施設見学会の実施 |
| 7. 親子3R教室の実施 | 8. ごみ減量・3R推進大会の実施 |
| 9. 府中リサイクルフェスタや府中環境まつりの実施 | 10. 再生可能な自転車の修理・販売 |
| 11. 生活用品活用事業（リサちゃんショップけやき） | |
| 12. 再生可能な家具等の販売（リサちゃんショップけやき） | |
| 13. 再生家具即売会（府中市リサイクルプラザ） | 14. 家庭用廃食油の回収（サンデーリサイクル） |
| 15. 小型家電宅配回収（国の認定事業者との連携事業） | 16. 知っているものはない |
| 17. その他 | |

図 市民アンケート（問7）結果

また、ごみの分別や3Rへの取り組み状況を質問した結果、「1. ごみの分別をきちんとしている」、「2. 生ごみを出すときは水気を切るよう努めている」については比較的に行っている割合が高いものの、組成調査結果などからもその効果が十分ではないと考えられます。また、「4. マイ箸やマイボトルを使っている」、「6. マイバッグを持参し、レジ袋をもらわない」等の日常生活で取り組みやすい項目について、実施割合が高いとは言えない状況にあり、取り組みの拡大に向けた施策を強化する必要があります。

問3 ごみの分別や3Rについて、現在どのようなことにどの程度取り組んでいますか。(それぞれ〇は1つ)



1. ごみの分別をきちんとしている
2. 生ごみを出すときは水気を切るよう努めている
3. 生ごみ処理機などを使用し、減量・堆肥化している
4. マイ箸やマイボトルを使っている
5. 食材を買いすぎないようにしている
6. マイバッグを持参し、レジ袋をもらわない
7. 使い捨てでなく、長期間使うことのできる商品を選んでいる
8. 詰め替えタイプや繰り返し使用できる商品を選んでいる
9. 小型家電の宅配回収を活用している
10. 不用品はフリーマーケットやリユースショップへ出すなど、リユース（再使用）に努めている
11. 簡易包装など、ごみ減量・資源化に取り組んでいる店舗から買い物をするように努めている
12. 食品トレイや牛乳パック、ペットボトルなどの資源品は、できるだけ販売店へ返却している
13. 地域のごみ減量・資源化の取組みに積極的に参加している
14. 親子3R教室や環境講座へ積極的に参加している

図 市民アンケート（問3）結果

(4) 事業系ごみの資源化の推進

近年、事業系ごみの排出量は微減傾向にあり、平成26年度における排出原単位は多摩地域26市の中では12番目で90g/人・日を下回っています。家庭系可燃ごみと一緒に収集される少量排出事業者からの事業系ごみ（事業系指定袋で排出されているもの）を対象に搬入状況を調査した結果、その他雑がみを含む紙類やプラスチック類等の資源化可能物が混入しており、その割合は最大で15%となるなど、事業系ごみの資源化の推進を進める必要があります。

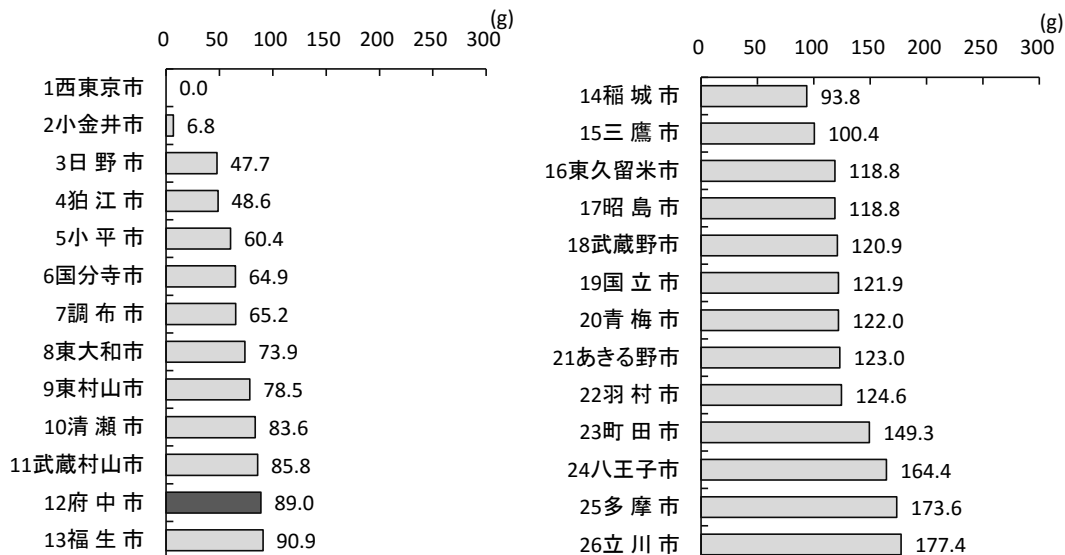


図 多摩地域 26 市における比較（平成 26 年）

(5) 事業系ごみの分別、適正排出の推進

一般廃棄物収集・運搬業の許可業者へのアンケート・ヒアリング調査の結果から以下のような状況があることが分かりました。事業系ごみは許可業者により処理施設へ搬入されていますが、搬入の際、分別が不十分な場合は搬入できないため、許可業者も自主的に排出事業者へ分別排出を随時呼びかけている状況です。近年、事業系ごみの分別状況は良好になってきており、排出事業者のリサイクルに向けた取り組みも積極的に進められています。しかしながら、排出者が事業者の顧客に該当する飲食店やコンビニでは店舗等において一度排出されたものを再分別することができないため、継続して分別が悪い傾向が見られます。

また、多摩川衛生組合における処理費用や分別ルール等の変更情報が排出事業者には十分伝わっていないケースもあり、処理費用増額に伴う価格交渉が必要な場合、多摩川衛生組合と周辺自治体との処理費用（単価）の差等について排出事業者の理解が得られにくい状況が生じています。その他、廃棄物処理法を逸脱した収集が行われている事例もあると考えられます。

これらに対する行政側としての状況確認や指導、啓発の強化が必要であると考えられます。

問 4 事業系一般廃棄物の 3R を進めていく上での問題点について、該当するものすべてに○をつけてください。その他にもご意見があればお書きください。

問 5 府中市への要望について、該当するものすべてに○をつけてください。その他にもご意見があればお書きください。

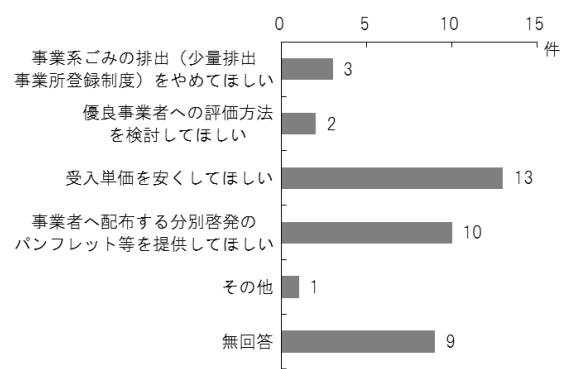
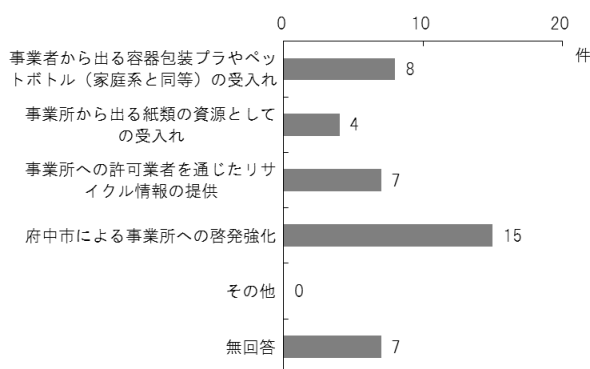


図 許可業者アンケート（問 4、5）結果

(6) 新たに取り組むべき課題

近年、国や各自治体等において食品ロス削減に向けた取り組みが推進されていることを受け、今回の市民アンケートでは、食品ロスやフードバンク、フードドライブ活動についても質問を設けました。その結果、「3. 食品ロスが問題になっていることを知っている」との回答が 60%を超え、関心の高さがうかがえます。

また、フードバンク活動やフードドライブ活動への参加経験の割合は少ないものの、「9. 食品ロスについて、今後は出来ることをやっていきたい」との回答が 50%を超えており、市民や事業者とともに積極的に取り組むことで、ごみの減量につながる可能性があります。

問 11 食品ロスについて、該当するものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

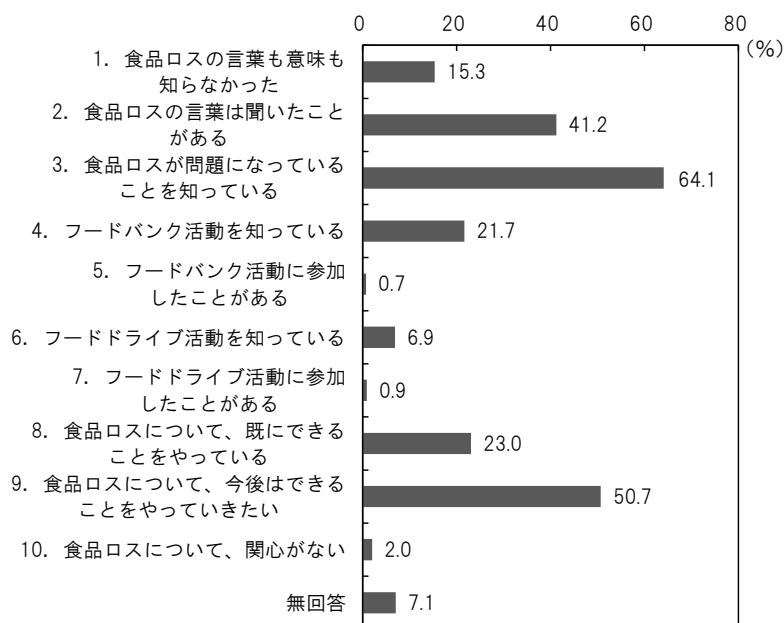


図 市民アンケート（問 11）結果

2. 収集運搬に関する課題

家庭系ごみの収集業務については、現在、戸別回収となっており民間事業者へ委託しています。今後についても、事業者との定期的な協議の継続を通じ、効率的な収集運搬と環境負荷の低減への取り組みが必要です。

3. 中間処理に関する課題

(1) 焼却施設

本市の可燃ごみは多摩川衛生組合のクリーンセンター多摩川で焼却処理を行っています。灰溶融施設については平成 28 年度中に廃止し、スラグの生産を終了しました。そのため、現在は焼却処理で発生した灰の全量を東京たま広域資源循環組合に搬入し、エコセメント化を行っています。

今後については、稼働から 19 年が経過するクリーンセンター多摩川の老朽化の状況を踏まえた施設延命化工事も注視しながら、引き続き安定操業に向けた取組を行っていく必要があります。

(2) リサイクル施設

府中市リサイクルプラザは平成 18 年から稼働しており、安定操業の継続に向けて設備のメンテナンスや定期点検を実施し、設備更新の際には効率化を踏まえた検討を行う必要があります。

4. 最終処分に関する課題

最終処分量については、中間処理施設において生産したスラグの有効利用先の確保が困難となっていました。平成 28 年度に灰溶融施設におけるスラグの生産廃止しており、その後については

焼却灰及び飛灰の全量を東京たま広域資源循環組合に搬入し、エコセメント化を行っています。今後も最終処分量ゼロを継続するとともに、エコセメントの有効利用先の確保については注視する必要があります。

5. 廃棄物処理費用に関する課題

1人当たりの年間ごみ処理費の推移をみると、平成22年度に大きく減少しましたが平成25年度には約3,000円増加しています。全国や多摩地域に比べると、近年は低く抑えられています。

また、1t当たりのごみ処理費の推移をみると、平成22年度に大きく減少し平成25年度に増加する傾向は1人当たりのごみ処理費と同様ですが、近年については全国や多摩地域とあまり差がない状況にあります。

今後も効率的な清掃事業を継続することにより、市民1人当たり及び1t当たりの処理経費を抑制し、市財政や市民への負担軽減に努める必要があります。

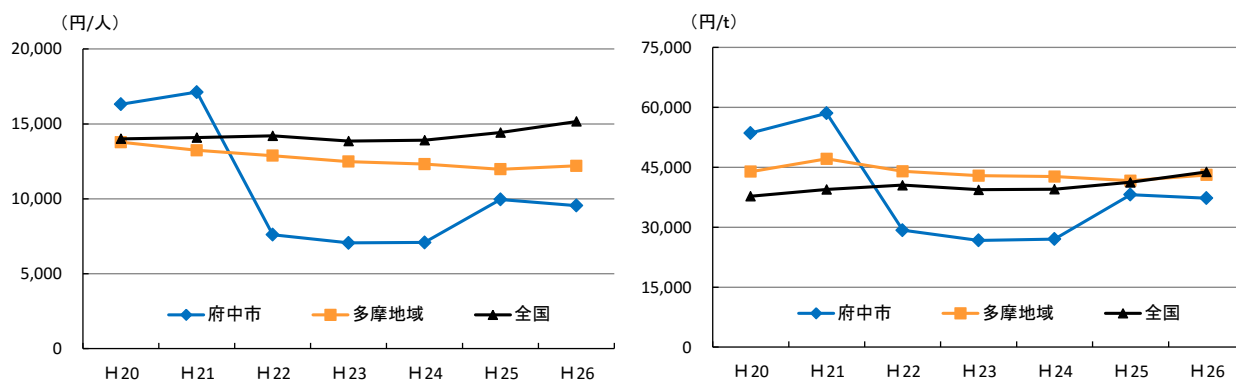


図 1人当たりの年間ごみ処理費の推移図

1t当たりの年間ごみ処理費の推移

表 年間ごみ処理費の推移

1人当たりのごみ処理費 (円/人)							
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
府中市	16,315	17,123	7,604	7,059	7,086	9,958	9,548
多摩地域	13,777	13,237	12,881	12,485	12,313	11,974	12,202
全国	14,002	14,083	14,201	13,854	13,905	14,417	15,159
1t当たりのごみ処理費の推移 (円/t)							
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
府中市	53,596	58,550	29,255	26,727	27,043	38,155	37,281
多摩地域	43,908	47,125	43,994	42,910	42,679	41,647	43,084
全国	37,769	39,470	40,543	39,409	39,540	41,249	43,847

※一般廃棄物処理実態調査結果（環境省）に基づき算出。